

第1学年4組 算数科学習指導案

令和2年11月18日(水)

第5限

1の4教室

1 単元 おおきいかず(13時間完了)

(1) 構 想

1年4組の子どもたちは、いろいろなことに前向きに取り組むことができ、誰にでも分け隔てなく接することができるよさがある。また、自分の見つけたものや感じたことを共有しようとする姿も見られる。反面、その姿を客観的に見て、話の輪の中に入ろうとしなかったり、授業中に答えが分かっている、他の子の意見を聞いて満足してしまったりする子どももいる。そこで、課題を自分事にとらえ、一人ひとりが主体性のある子どもになってほしいと願い、教材を模索した。

そんな中、道で見つけたドングリを嬉しそうに持って来て担任や友達に見せたり、生活科の学習で休み時間にもアサガオの種を取りに行ったりする姿があった。こうした子どもたちをとらえたとき、種やドングリのようなたくさんを数えることのできる「大きいかず」が教材として浮かんできた。

たくさんドングリを拾った子どもたちは、「いくつあるんだろう」という意識を生むだろう。初めは、少ない数を数えることをするために、遠足で拾ったドングリの数を数えさせる。1つずつ数えていく子どもや、1学期に学習した2とびや5とびの数え方をする子どももいるだろう。そこで、全員の考え方を発表し合う場を設ける。次に、アサガオの種を見せ合う場を設ける。子どもたちは「誰が種が一番多く採ったのだろうか」という問いをもち、追究によって明らかにしようとするだろう。ドングリの数よりも多いアサガオの種は、1つずつや2とび、5とびの数え方では、面倒だと気づく子どももいるだろう。より速く正確に数える方法を追究させる中で、10のまとまりを作ることのよさに気づかせたい。10のまとまりを作るよさを知った子どもたちは、大きいかずのものに興味を持ち、大きいかずのいろいろなものを見つけたり、数えたりしようとするだろう。その中で、数を書き留めておきたいと思う子どもの気持ちから、100までの数を書く機会につなげたい。また、近い数の子との比較から、いくつ違うのかといった学習につなげたい。

この単元を契機に、身の回りのいろいろなものの数に興味を持ったり、主体性をもって授業に参加したりすることのできる子どもを育てていきたい。

(2) 教科の目標

- ・100までの数を10ずつまとめて数えるよさに気づき、身のまわりから進んで100までの数字を見つけようとするようにする。
(主体的に学習に取り組む態度)
- ・100までの数を「10がいくつと1がいくつ」、100を少しこえる数を「100といくつ」という見方にとらえることができる。
(思考力・判断力・表現力)
- ・十進法を理解し、100までの数や100を少しこえる数の表し方や意味を理解し、100までの数や100を少しこえる数について、数字でかいたり数直線上に表したり、数の大小比較をすることができる。
(知識・技能)

(3) キャリア教育の目標

- ・子どもたちの追究による様々な解決方法から、より良い方法を導き出すことができる。(課題対応能力)

(4) 単元計画 学習課題 ・子どもの思い 意見・知識 ◎まとめ ・支援

時数	学習課題・子どもの思い	教師の支援
0	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドングリが落ちていたよ。 ・ アサガオの種がたくさんになってきたな。 ・ 東公園で、木の実をたくさん拾ったよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちの学習、生活の実態を把握し、それが生きるよう単元構想に仕組む。
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドングリは何個あるのかな。 ・ 誰が一番たくさんのアサガオの種を採ったんだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の体験を振り返ることができるように、生活科の学習を想起させる。
2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 本時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">ドングリや アサガオの たねの かずを かぞえよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ だいたい50こぐらいありそう。 ・ 1こずつかぞえてみよう。 ・ 2とびや5とびの方がかぞえやすいんじゃない。 ・ 10こずつまとめてみよう。 </div> <p>◎10のまとまりを作ると、分かりやすいよ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">20より 大きいかずの ものを さがしてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クラスみんなで29人だね。 ・ 先生の磁石は53個だよ。 ・ 本棚の本が72冊あったよ。 ・ ロッカーの数が54こあるよ。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">20より 大きいかずを すうじで かこう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「さんじゅうに」は「3102」って書かないよ。 ・ 日にちを かい たことがあるよ。 ・ 私の名簿番号は23番だよ。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">20より 大きいかずについて しらべよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「32」の「3」を「十のくらい」、「2」を「一のくらい」っていうんだね。 ・ 「53」は、50より3大きい数だよ。 ・ 「100」は10が10個集まった数だね。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">大きさをくらべを しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と数カードを出し合い、どちらが大きいかを確かめ合う </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東公園で採ったドングリを同じ数ずつ分け、数える方法を考える。 ・ お互いに採った種を見せ合い、誰が多いのかを予想する場面を設定する。 ・ いろいろな数え方で数を求めようとしている子どもを称賛する。 ・ 数え方に注目させるために、同じ数のドングリを配る。 ・ 教室の中で、20以上のもの探しを行う時間を設ける。 ・ 身の回りの20より大きい数のものを探し、数えようとしている子どもを称賛する。 ・ 書き方は、20までの数や日にち、名簿番号を想起するよう伝える。 ・ 身の周りにある20より大きい数字を探したり、数字を書いたりする機会を作る。 ・ 視覚的に捉えられるように、「十のくらい」「一のくらい」について、数え棒と数字を対応させる。 ・ 大きさや「いくつ大きい」「いくつ小さい」を考える際には、既習事項の数直線を利用する。 ・ 大きさやいくつ大きいかについて、楽しく理解できるように、大きさゲームを行う。
13	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">いろいろなものを かぞえて かいておきたいな</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ◎大きいかずは、10のまとまりを作ると数えやすいね。 ◎100までの数なら、数えられるよ。 ◎100までの数字を書くことができるよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の最後に、数え方や数字の書き方の定着を図るため、いろいろなものの数を数え、ノートに書き留めさせる。

2 本時の学習指導（3 / 13 時間）

（1）教科の目標

- ① 20より大きい数のものの数え方を工夫し、10のまとまりをつかって数えるよさに気づくことができる。（思考力・判断力・表現力）
- ② 20をこえる数の数え方を理解することができる。（知識・技能）

（2）キャリア教育の目標

- ① ドングリの数え方を聞き、アサガオの種を数えるときにはどのような方法がよいかを自分なりに考え、より良い方法を考え出すことができる。（課題対応能力）

（3）こだわりをもった話し合いを行うための手だて

- ・ 発言者が自分の考え方を提示しながら発表し、聞く子どもたちが自分の考えと比較しやすいように、種を貼ってペンで考え方を書き込むことのできるボードを用意する。

（4）準備

- ① 児童 アサガオの種、道具箱のふた
- ② 教師 ドングリを数えた方法の分かる写真、数え方を書き込むための紙

（5）展開

時間	子どもの活動	教師の支援
導入 (3)	<p>1 ドングリの数え方を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1個ずつ数えたよ。 ・ 2とびで数えたよ。 ・ 5とびで数えたよ。 <p>2 アサガオの種を見せ合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の採った種を袋ごと見せ合い、誰の種が多そうか予想する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドングリの数え方を写した写真を提示しながら発表するよう指示する。 ・ ドングリの数よりかなり多い数のアサガオの数を見せることで、子どもの数えたい気持ちを高める。
把握 (2)	<p>3 本時の学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">あさがおの たねを くふうして かぞえよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習課題を板書する。
展開 (35)	<p>4 アサガオの種の数え方を数える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ドングリより多いから、数えるのが大変そうだな。 ・ 確実に数えられるから1つずつがいいよ。 ・ 1つずつ数えるのは面倒だよ。 ・ 2とびでも数えられたよ。 ・ 5とびのほうが簡単に数えられるよ。 ・ 10のまとまりを作ってみたよ。 <p>5 数え方を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1個ずつが、間違えなくていいよ。 ・ 1つずつ数えるのは面倒だったから2とびで数えたよ。 ・ でも2とびでも面倒だったから5とびのほうがいいよ。 ・ 10のまとまりを作ってみたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのような方法も認め、いろいろな方法で数えている子どもを称賛する。 ・ 100を超える子は100まで数えられたら、残りを同じ方法で数えるように伝える。 ・ 数え方が分かるように、ボードに図や数字を書き込んだり、種を貼ったりするように指示する。 ・ ボードを提示しながら発表するよう指示する。 ・ ボードは、同じ考え方が分かるように分類しながら黒板に貼る。 ・ 友達の発表に反応をしながら発言を聞くことができた子どもを称賛する。

ふりかえり (5)	6 本時を振り返って気づいたことや感じたことを発表する。 ◎1つずつ数えるのは面倒だと思ったよ。 ◎10ずつまとめると数えるのが簡単になると思ったよ。	・「10のまとまり」というキーワードが出たら、板書をする。
--------------	---	-------------------------------

(6) 評価

- ①アサガオの種の数を、より速く正確に数える方法を考え、10のまとまりを作って数えるよさに気づくことができたか。(活動4, 5, 6から)
- ②自分のアサガオの種の数を、10のまとまりを作ってかぞえることができたか(活動5から)